

令和8年度 瀬戸まちの課題解決応援補助金 テーマ型協働活動部門一覧

担当課・係	テーマ	提案内容	区分	募集団体数
都市計画課・建築指導係	市内の魅力ある空き家発掘プロジェクト	<p><b>【背景】</b>            ・瀬戸市では平成28年から瀬戸市空家等対策計画~せとで住もまいプロジェクト~を策定し、空家対策に取り組んでいる。            ・平成27年から空き家情報バンクを開設しているが、近年登録物件が少なく、物件の掘り起こしに苦慮しているところである。</p> <p><b>【現状の課題】</b>            ・所有する空家には「物件的な価値や魅力がない。」と感じている所有者と、歴史ある瀬戸の空家に魅力を感じているツクリテや若い世代の意識のギャップにより、空家に対する需要はあるが物件の掘り起こしが間に合わず供給不足となっている。</p> <p><b>【目指す姿】</b>            ・官民連携で魅力ある空き家の見出し、所有者に働きかけ、利用したい方へのマッチングを図り、空家の利活用を促進して賑わいを見だす。</p>	新規	1団体
行政課・事務管理係	若者の投票率向上のための選挙啓発活動	<p><b>【背景】</b>            選挙は市民が主権者として政治に参加する最も重要な機会だが、近年の若者の投票率は低迷している。</p> <p><b>【現状の課題】</b>            若者の投票率が低い主要な理由として、政治への関心の低さ、選挙や政治に関する知識不足などが挙げられるが、現状では、政治が日常生活に与える影響や、政治や選挙制度について学ぶことのできる、若者向けの効果的な選挙啓発活動が実施できていない。</p> <p><b>【目指す姿】</b>            若者向けの啓発コンテンツの作成及び活用やトークセッションなどのイベントを市民活動団体と協働で実施することにより、政治や選挙に対して主体的に関わるきっかけを提供し、若者の投票率向上を目指す。</p>	新規	1団体
環境課・ごみ減量係	誰もがこれまで以上にごみの減量・分別に取り組める持続可能なまちづくり	<p><b>【背景】</b>            ・本市のごみ量は令和2年度までごみ減量が進んでおらず、県下における1人当たりごみ量は下位であったが、令和3年度以降、ごみ処理の有料化（ごみ袋の有料化）や容器包装プラスチックの資源化をはじめとした各種取組によって大きくごみの減量が進んでいる。            ・総ごみ排出量は減量傾向ではあるものの、1人1日あたりのごみ排出量(資源物除く)については、令和4年度56.6g/人・日から令和5年度519g/人・日の▲4.7g減量が、翌令和5年度519g/人・日から令和6年度499g/人・日は▲20g減量となっている。</p> <p><b>【現状の課題】</b>            ・ごみの減量は進んでいるものの、1人当たりごみ量の減量をさらに進めていく必要がある。            ・特に家庭が出すごみに含まれる食べ残し等の食品ロスは、ごみ袋の組成分析の結果、ごみ量の30%程度を占めていることが分かっており、減量に向けた取組が必須である。            ・環境課だけではマンパワーの限界があり、市民がごみ減量が実感できるような取組、また、広報・啓発を市民活動団体とともに進めていきたい。</p> <p><b>【目指す姿】</b>            ・持続可能なまちづくりに向けて、市民一人ひとりがごみの減量が実感できるようになる。            ・子どもや外国人も含めて、誰もがごみの分別などを身近に感じられる環境をつくる。</p>	新規	1団体